
英語教育における AI（人工知能）のリテラシー：学部共通コースの AI ポリシー と教育方法の確立へ

研究代表者 メベッド シェリフ（法学部）
共同研究者 ホワイ ト ショーン アラン（経営学部）
 ロザーティ サイモン（経済学部）
 今村 潔（経営学部）

はじめに

ChatGPT などの大規模言語モデル（LLM）や生成 AI ツールの発展および普及は、英語をはじめとする外国語教育に対して大きな可能性と課題の両方をもたらしている。肯定的側面として、学習者と教員は各自のレベルに合った目標言語の文章作成、翻訳、語彙リスト、文法説明、例文、練習問題などを、インプット教材およびアウトプットのモデルとして自由に作成できるようになった。また、インタラクティブなコミュニケーション練習や、言語アウトプットに対する即時のフィードバックを受けることも可能となった。適切に利用すれば、AI は自己調整型学習やメタ認知能力の向上、言語能力の発達に貢献する可能性が高い。一方で、過度な依存や誤用により、学習者のスキル低下、表現の真正性や学問的倫理への脅威といった負の側面も指摘されている。言うまでもなく、言語学習やスキル向上を最適化するには、教員と学生が生成 AI の技術とその活用法を深く理解し、負の影響を最小限に抑えるための適切な対策を取ることが不可欠である。このような背景のもと、本 FD 研究開発プロジェクトではまず、AI リテラシー向上のための資料収集と、学生の学習に貢献しうる AI アプリケーションの調査を目的とした。次に、学部共通英語コミュニケーションコースにおける AI 利用ポリシーの草案作成を目的とした。

AI に関する情報と資料の収集

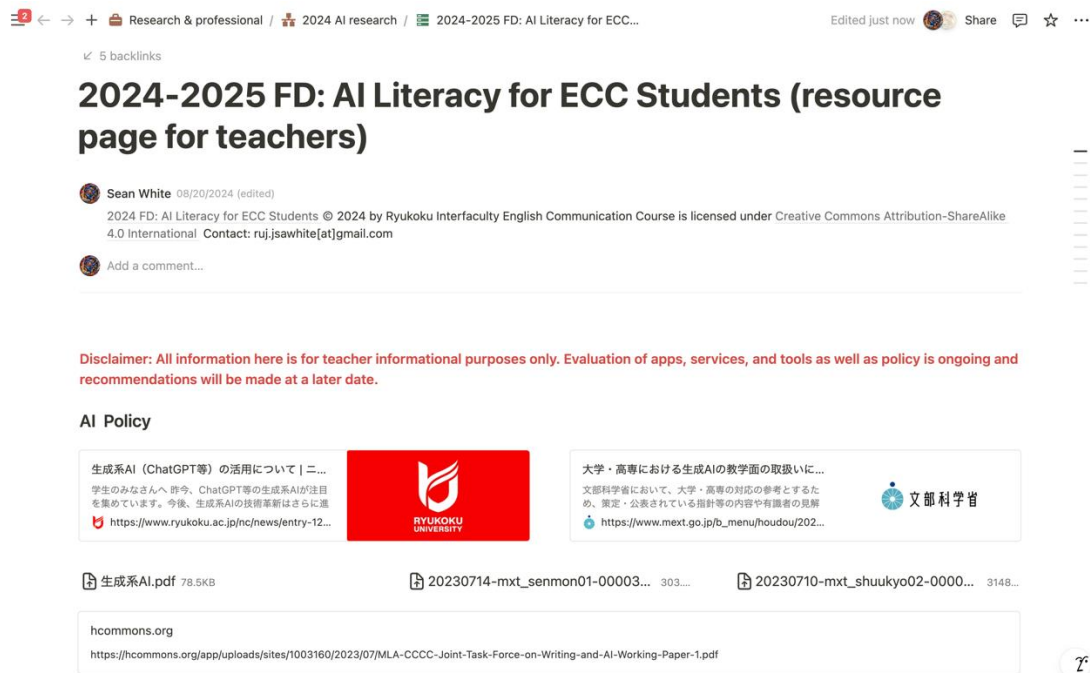
AI とその教育への活用に関する情報や資料を、インターネットや研究データベースの検索に加え、JALT CALL（全国語学学会コンピュータ支援言語学習研究部会、2024 年 5 月、名古屋市）や LET（外国語メディア教育学会、2024 年 8 月、名古屋市）といった学会大会への参加を通じて収集した。その結果は、リンクやファイルをまとめたリソースページとして、Notion ワークスペースアプリ上で作成し、共有可能な URL を通じて提供した（<https://tinyurl.com/mrym6mej>）。

このリソースページでは、英語や他言語の教員・学生が AI リテラシーを身につけるための資料を提供している。特に、ChatGPT をはじめとする生成 AI ツールの概要や、それらが語学学習および学術的作業に与える影響を理解することに焦点を当てている。主な掲載内容は以下のとおりである。

- 文部科学省、龍谷大学、海外大学および教員の AI 利用ポリシーと授業シラバスの事例
- AI ツール利用時の明示方法および引用の具体例
- AI リテラシー関連のリンク集
- 各種 AI ツールへのリンク：
 - ChatGPT や Gemini などのチャットボット
 - Copilot や Perplexity などの検索ツール
 - Grammarly や DeepL Write などのライティング支援ツール

- DeepL や Google 翻訳などの機械翻訳ツール
- EnglishCentral、ELSA Speak、Loora、Eigo.AI など、スマートフォンや PC 向けの語学学習アプリ
- プロジェクト参加メンバーによる各自の授業での AI 活用例

Figure 1: 作成したリソースページ



このページは、英語コミュニケーションコース担当の教員のみならず、広く語学教育に携わる教員が AI リテラシーに関連した教材や授業アイデア、指導方法を参照するための中心的なハブとして機能している。

EnglishCentral について

前述の調査活動を通じ、語学学習サービスの EnglishCentral (<https://ja.englishcentral.com/>) が、英語コミュニケーションコースの学生に対する補助的学習ツールとして有望であることが判明した。同サービスは、動画ベースの学習、音声認識とフィードバック機能、独自の生成 AI チャットボット「MiMi」を使った口頭および書面のコミュニケーション練習、さらに希望者向けのライブ形式のチューター指導を組み合わせた内容となっている。動機づけにつながるコンテンツ、理解可能なインプット、状況に基づいた学習を基本理念とし、包括的な語学習得支援を提供している。

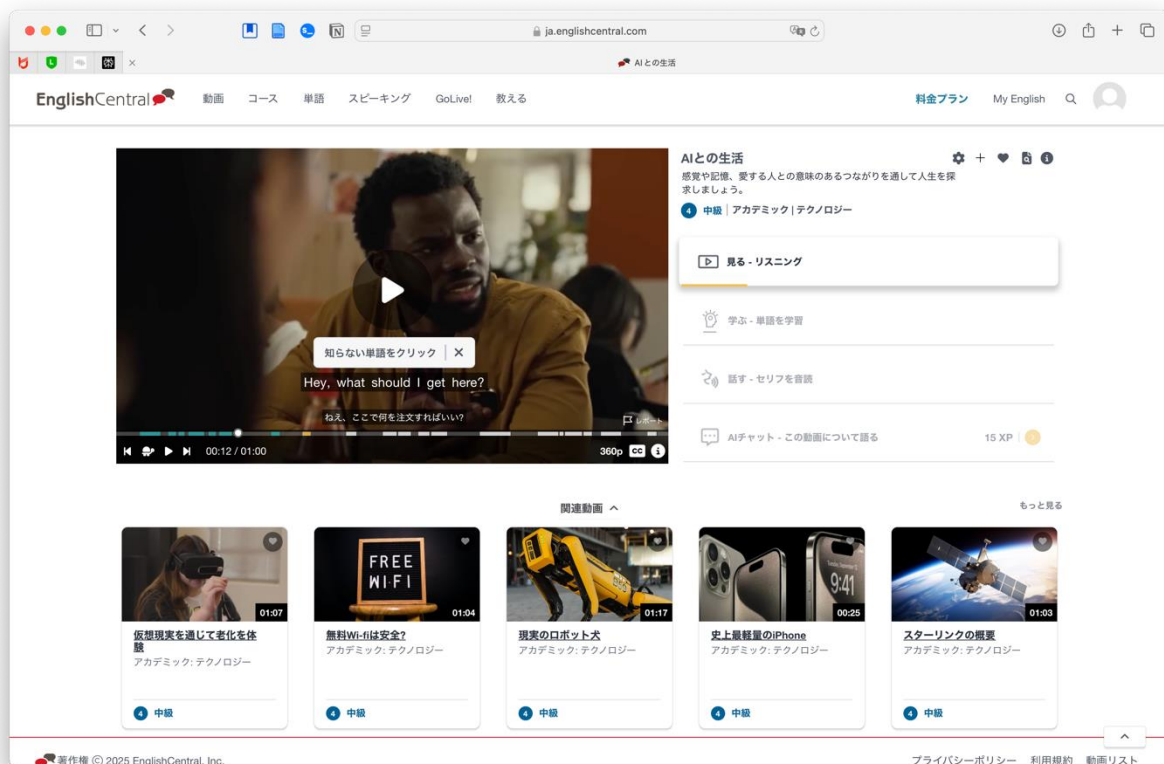
主な特徴は以下の通りである。

- 実際に使われる英語表現を含む 3 万本以上の動画ライブラリーがあり、学習者の能力レベルや興味関心分野ごとに分類されている。また各動画は 2 分未満と短く、字幕がついている。

- インタラクティブな学習プロセスがあり、ユーザーは動画を視聴した後、語彙練習や発音練習を行い、IntelliSpeech 技術により即座にフィードバックを得ることができる。
- 実際の動画から抽出された 500 万語以上を網羅したコーパスを持ち、研究に基づく高頻出語リストや特定分野向け語彙リストなどが提供されている。
- AI による自動判定で既知語を識別し、スピーキングの復習、書き取り、タイピングなど、複数の学習モードを提供する。

EnglishCentral は無料利用に加え、多様な有料プランを提供している。アカデミックプランでは、ビデオ学習やチャットを利用した学習エクササイズが無制限に利用可能となり、ビジネス英語やアカデミック英語を含む多様なコースにもアクセスできる。さらに、教員側でクラスの設定や週単位の学習目標の設定、動画やコースの指定、学習状況のモニタリングが可能となっている。1 学期あたりの学生利用料金は本稿執筆時点で一人 3,600 円である。

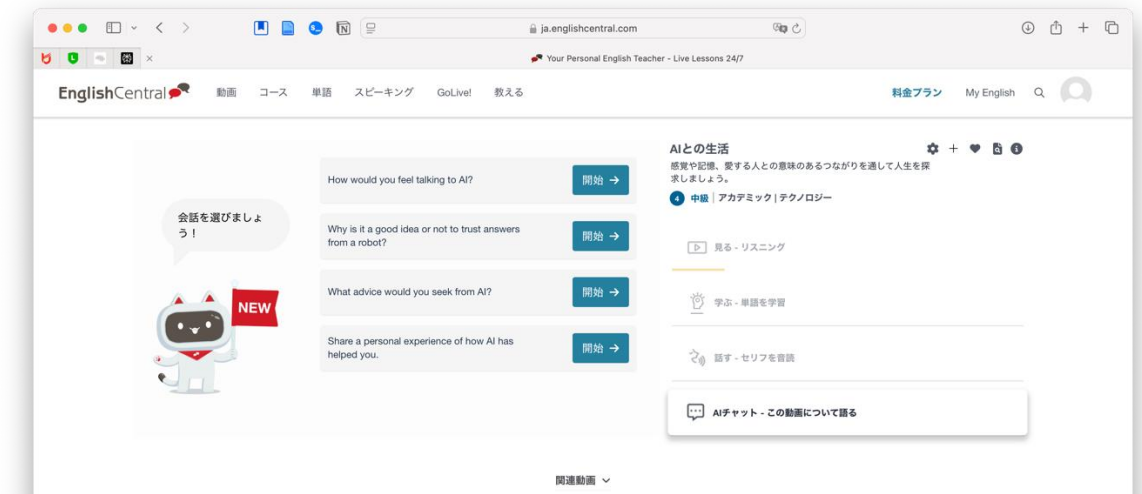
Figure 2 : EnglishCentral のビデオ学習活動の例



学習活動にはリスニング、スピーキング、語彙学習、会話練習が統合されている。アプリはモバイル端末でも使用可能であり、11 の異なる母語に対応している。また、人間のチューターとのリアルタイムセッションを設定することも可能であり、アカデミック利用者向けの料金は 25 分あたり本稿執筆時点で 1,200 円（ただし、包括的なプランに含まれる場

合もある) となっている。

Figure 3: EnglishCentral の動画ベース AI チャットボット「MiMi」との会話の例



本 FD 研究開発プロジェクトの一環として、2024 年度後期において、オーラル・コミュニケーション科目を履修する 2 年次の 4 クラスの学生全員に対しアカデミックプランのアカウントを作成した。週あたり 5 本の動画とそれに関連するエクササイズを目標として設定し、約 2 時間分の学習に相当する内容を課した。学期開始直後に導入されたため、この活動は任意ながらも推奨される課題となり、主に授業外での実施が求められた。使用状況の統計では、設定した週 2 時間分の課題完了率は約 30%にとどまり、一人あたりの週平均学習時間は約 35 分程度（最高は週平均 2.75 時間、最低は 0）であり、当初予測を下回った。ただし、学期末に実施したアンケート調査では、学生からのフィードバックは概ね肯定的であった。

Figure 4: 学生の EnglishCentral に対するフィードバックアンケート結果①（総合的満足度）

EnglishCentral全体に対して、全く思わない〜とても思うから、最も当てはまるのを選んでください

● 全く思わない ● あまり思わない ● どちらでもない ● まあそう思う ● とても思う

今学期のEnglishCentralの使用体験に全体的に満足している。

EnglishCentralを使用することで英語学習へのモチベーションが高まった。

EnglishCentralを使うのは楽しく、やりがいがあった。

EnglishCentralは私の個人的な英語学習の目標達成に役立った。

1週間の学習目標（5つのビデオ視聴、30単語の学習、50文の反復、5回MiMiとの会話、合計時間約2時間）は適切だった。

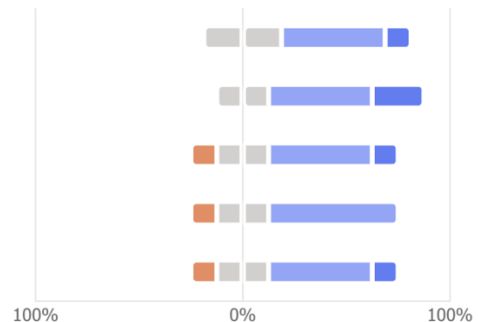


Figure 5: 学生の EnglishCentral に対するフィードバックアンケート結果②（動画・語彙活動について）

EnglishCentralの各機能に対して、全く思わない～とても思うから、最も当てはまるのを選んでください

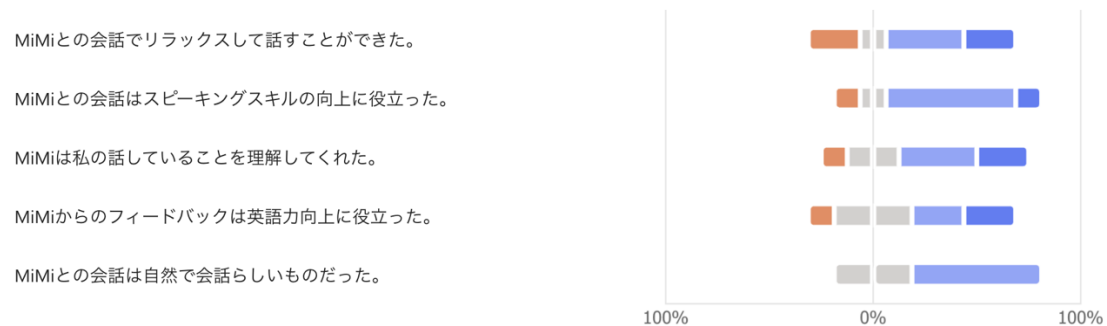
● 全く思わない ● あまり思わない ● どちらでもない ● まあそう思う ● とても思う



Figure 6: 学生の EnglishCentral に対するフィードバックアンケート結果③（MiMi AI チャットボットについて）

EnglishCentralの各機能に対して、全く思わない～とても思うから、最も当てはまるのを選んでください

● 全く思わない ● あまり思わない ● どちらでもない ● まあそう思う ● とても思う



アンケート結果によると、多くの回答者が満足感や楽しさ、学習への動機づけ、有用性や効果について比較的高い評価を示した。特に「MiMi」チャットボットとの口頭コミュニケーションが自然かつ効果的な練習方法であると評価された。これらの結果から、EnglishCentral が AI を活用した補助的な語学学習プラットフォームとして優れており、今後も継続的な活用 に 値 する と 判 断 可 能 である。一方で、週単位の学習目標の達成度が低めであったことを踏まえると、担当教員はこの学習内容を授業に取り入れ、明確な学習要件として位置付ける必要があるだろう。さらに今後の研究では、学習による実際の習得成果を客観的に評価することが重要である。また、EnglishCentral では、自動採点式のオンライン言語評価テストである Pearson 社の Versant の導入を計画しており、これが語学習得のさらなる分析や評価機会を提供する可能性もある (<https://ja.englishcentral.com/versant/school>)。

最後に、動画学習に加えて、人間のチューターとのリアルタイムセッション（GoLive セ

セッション) も 2 回実施した。学生の回答によれば、様々な国籍のチューターとリアルタイムでビデオコミュニケーションができる点を評価する声があった一方で、予約管理や技術的な問題に関する課題も示された。セッションごとの追加料金を考慮すると、この活動を継続するにはさらなる検討が必要である。

英語コミュニケーションコースにおける AI 利用ポリシー (草案)

「はじめに」で述べたように、本プロジェクトの第二の目的は、英語コミュニケーションコースにおける AI の教育利用について、その利点とリスクの両面を考慮したポリシーを作成することである。文部科学省や龍谷大学の指針、および図 1 で示したリソースページに収集した情報に基づき、ポリシーの草案を作成し、コース科目担当教員間で共有した (<https://tinyurl.com/bdh269ku>)。

ポリシーの主要項目：

- AI が適切に使用されれば、価値ある学習支援ツールになる可能性があることを認識する。
- 学術的な誠実性を保ち、学習活動における AI 利用の透明性を強調する。
- 科目の主たる目標である、学生の英語コミュニケーション能力の向上を維持する。
- シラバスや課題目的、ガイドラインに応じて、AI 利用の適切性を担当教員が明確に示したポリシーに従う。

AI 利用が適切とされる例：

- アイデアのブレインストーミングおよび計画立案
- 文法や語彙に関するフィードバックを得ること
- 英語での会話練習を行うこと
- 学習用の例文やモデル文を生成すること

禁止される AI 利用例：

- AI が生成した内容を自分自身の成果物として提出すること
- 個人の語学能力を評価するための課題を AI で完了すること
- エッセイやレポート、プレゼンテーション全体を AI に書かせること
- 課題提出の際に日本語と英語間の翻訳を AI に行わせること

AI 利用の開示要件：

- 課題提出時に AI を利用した場合は、その利用の有無、方法を学生が明示する。
- AI による支援を明示する具体的なフォーマット例を掲載したリンクをポリシーに提供される。

AI の不適切利用やポリシー違反に対する措置：

- 剽窃行為など、AI の利用を明示せず不適切に使用した場合は、担当教員がシラバスや課題ガイドラインに従って決定したペナルティを課す場合がある。

本ポリシー草案は、AI が持つ可能性を認めつつ、最低限の利用範囲と教員側の裁量を明確にし、学生が自身の言語スキルを確実に伸ばせるようバランスをとったものである。特に、AI 支援を使用する際の透明性と適切な引用を強調している。

2024 年 12 月に本ポリシー草案の利用方法について担当教員間で会議を実施し、フィードバックを得た。各教員は自身のクラスにおける AI 利用ポリシーを授業シラバス内に明記するよう促された。2025 年度春学期にさらなるフィードバックを収集し、それに基づいてポリシーを改定し、2025 年度秋学期開始時に発行される英語コミュニケーションコース

の次回のハンドブックに掲載する予定である。

考察と終わりに

本報告では、生成 AI ツールがもたらす教育上の利点と課題の両面を示しつつ、英語教育における AI リテラシーの導入について検討した。特に、リソース開発の段階では、教員および学習者が新たな技術を効果的に活用するために役立つ AI リテラシー資料を一元化して提供した。また、EnglishCentral プラットフォームの評価を通じて、インタラクティブかつマルチメディアなコンテンツおよび AI を活用したフィードバックが、学生の関与度や学習意欲、さらには言語能力の向上への自覚に明確な効果があることが確認された。ただし、設定された学習目標の達成率が比較的低かった点から、コースカリキュラム内でより体系的な導入方法を検討する必要がある。English Central のようなプラットフォームの継続的な活用は、学習者ごとの個別指導の実現や学習者の自律性向上、リアルタイムでのフィードバックなど、語学学習に多くのメリットを提供する可能性がある。今後の研究では、実際の学習成果を客観的に評価し、AI による継続的支援を通じた言語能力の長期的な発達を測定する必要がある。次のステップとしては、教員および学生からさらにフィードバックを収集した上で AI 利用ポリシーの草案を精査し、完成させることが重要である。さらに、AI ツールを通常の授業活動に体系的に組み込み、明確な指導指針を示すことにより、学生の安定した参加を促し、学習効果を最適化することが求められる。こうした取り組みを通じて、責任ある効果的な AI 導入を実現し、支援的かつ生産的な学習環境の構築を目指すべきである。